



はこだて Marine Letter

令和4年6月 No.109

ミニボートから転落したり、ミニボートが転覆した場合の対処法！

ミニボートは、波の影響やボート内の座る位置により、簡単に乗船者が転落するくらい船体が大きく傾きます。海上でミニボートから転落した場合やミニボートが転覆してしまった場合の対処法を解説します。

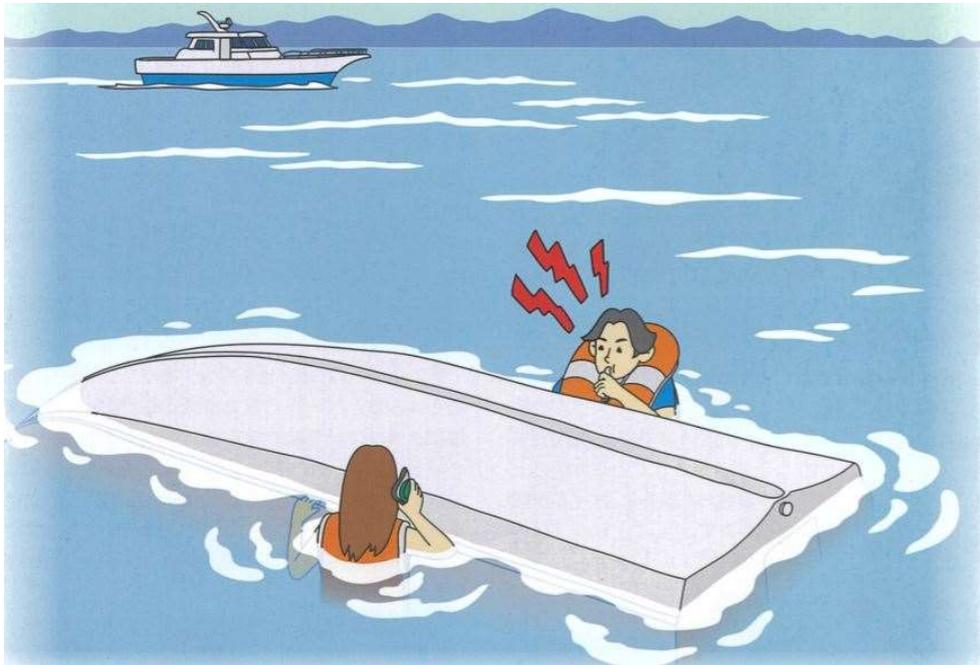
(一社)日本マリン事業協会の技術指針に沿ったミニボートをはじめ、適正な構造と強度を持つミニボートは、通常の姿勢(船底を下にして浮いている姿勢)で船内が水で一杯になっても、水面に船体の一部を出した状態で18時間以上浮かぶように作られています。

さらに、転落した乗船者が掴みやすい構造や装備も備えているため、乗船者は浮いている船体に掴まって救助を待ってください。

水中では体温が徐々に奪われていきますので、防水パックに入れた携帯電話で同行している仲間の船や出航場所の管理者に連絡をとるか、躊躇せずに海上保安庁緊急通報電話番号(118番)へ通報してください。

また、近くに船を見つけたらライフジャケットの笛を吹くと発見されやすくなります。

岸が見えているからと船体から離れて岸に向かって泳ぎだしてはいけません。ライフジャケットを着用したままだと泳ぎずらく、潮や風に流される危険があります。



ミニボートとは、
全長3メートル未満
推進機関の出力が
1.5KW(約2馬力)
未満の船舶です。



観天望気(津軽海峡の昔からある天気のことわざ)

- 函館山に雲かかれば雨(当別地区)
函館山に半分以上雲がかかると、東よりの風で雨となる。
- 函館山にボトかがれば雨(上磯地区)
函館山に雲がかかると、間もなく海が時化てくる。
- 函館山さ霧かがればアカヤマセ(根崎地区)
函館山が霧に包まれると、やがて南東風が吹き始める。

